



Sun Java Desktop System Release 2 インストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-5996-10
2004 年 4 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Java Desktop System Release 2 Installation Guide*

Part No: 817-5178-10

Revision A



040420@8606



目次

- はじめに 5

- 1 **Java Desktop System** をインストールする前 9
 - システムの条件 9
 - デュアルブート 10

- 2 **Java Desktop System** のインストール 11
 - CD からの Java Desktop System のインストール 11
 - CD から既存のシステムをアップデートする 16
 - パーティション分割時の推奨ガイドライン 16
 - パーティションのサイズ変更 17
 - カスタムパーティションテーブルの作成 18

- 3 **Java Desktop System** をインストールした後 19
 - システム更新の確認とインストール 19
 - ハードウェアクロックを変更する 19
 - カスタマーサポート 20

はじめに

本書では、Sun Java™ Desktop System Release 2 を CD から PC にインストールする方法について説明します。ネットワークインストールや SLEC オペレーティングシステムからのインストールなど、他のインストール方法については説明していません。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『Java Desktop System Release 2 クイックスタート・ユーザーズガイド』
- 『Java Desktop System Release 2 ご使用にあたって』
- 『Java Desktop System Release 2 問題の解決方法』
- 『Java System Update Service ユーザーズガイド』

これらのマニュアルを使用するには、付属の Sun Java Desktop System Release 2 Documentation CD を使用するか、<http://docs.sun.com> にアクセスします。

参考マニュアル

次に、このマニュアルを読む際に参考になるマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』
- 『GNOME 2.2 システム管理 (Linux 版)』
- 『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』
- 『StarSuite 7 Office Suite インストールの手引き』
- 『StarSuite 7 Office Suite ユーザーズガイド』
- 『Ximian Evolution 1.4 ユーザーズガイド Sun Microsystems Edition』

これらのマニュアルを使用するには、付属の *Sun Java Desktop System Release 2 Documentation CD* を使用するか、<http://docs.sun.com> にアクセスします。

Sun のオンラインマニュアル

`docs.sun.com` では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、`http://docs.sun.com` です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
<code>AaBbCc123</code>	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<code>AaBbCc123</code>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i><code>AaBbCc123</code></i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味しません。

第 1 章

Java Desktop System をインストールする前

この章では、Sun Java Desktop System Release 2 をインストールする前に実行する作業について説明します。

システムの条件

完全なインストールを行うには、以下のものがが必要です。

- 次の最小システム構成を満たすパーソナルコンピュータ (PC)

表 1-1 Java Desktop System のシステム要件

	推奨	最小
プロセッサ	600 MHz 以上の Pentium III と互換のプロセッサ	266 MHz 以上の Pentium II と互換のプロセッサ
ハードディスク	6G バイト	4G バイト
RAM	256M バイト	128M バイト
ディスプレイ解像度	1024 x 768	800 x 600

PC はインストール CD から直接起動できる必要があります。CD からの起動プロセスは、システムによって異なります。問題が発生した場合は、ご使用の PC のマニュアルを参照してください。

インストールには、PC に関する次の情報が必要です。

- ユーザー名
- ネットワーク構成情報
- ディスクパーティション情報

■ ISP 構成情報

インストールには少なくとも 45 分かかります。インストール作業中にシステムがハングアップしたように見えた場合でも、インストールプロセスを中断しないでください。

デュアルブート

Java Desktop System のインストール時に PC 上にデュアルブートを設定することができます。

工場出荷時のほとんどの Microsoft Windows インストールはハードディスク上の容量をすべて占有しているため、Linux 用の空き容量は残されていません。そのため、Java Desktop System インストール構成プログラム (Configurator) は Linux オペレーティングシステムをインストールするためのパーティションを作成します。

各オペレーティングシステムは固有のファイルシステムを持っているので、別のオペレーティングシステムがそのファイルシステムを読み取れないことがよくあります。Configurator は、Microsoft Windows で使用される FAT32 ファイルシステムを読むことができます。

Linux はそれ自身のパーティションを必要とし、また Microsoft Windows はパーティションのサイズを変更できないため、Configurator はハードディスクを調べて適切なパーティション設定を提案します。

注 - インストールされている Windows が NTFS ファイルシステムをサポートしている場合も同様に、固有のカスタムパーティションを作成することができます。この場合、パーティションのサイズを変更できないため、Configurator は既存のパーティションを置き換えるように提案します。ただし、パーティションのサイズを変更する他社製のアプリケーションを使用すると、現在の Windows パーティションをそのまま残すことができます。

デュアルブートシステムを作成する場合は、次の点を考慮してください。

- 保持したいファイルは、すべて CD にバックアップする。
- インストールされている Windows が FAT 32 ファイルシステムを採用しているかどうかを確認する。

第 2 章

Java Desktop System のインストール

この章では、Sun Java Desktop System Release 2 のインストール手順について説明します。

CD からの Java Desktop System のインストール

この節では、Java Desktop System インストールパッケージに含まれる CD を使って、Java Desktop System をインストールする方法を説明します。

次の手順を実行します。

1. CD 1 を CD ドライブに挿入します。
システムが起動し、次のオプションが表示されます。
 - **Boot from Hard disk** (ハードディスクから起動)
 - **Installation** (インストール)
 - **Installation — ACPI Disabled** (インストール — ACPI 無効)
 - **Installation — Safe Settings** (インストール — 安全設定)
 - **Manual Installation** (手動インストール)
 - **Rescue System** (復旧システム)
 - **Memory Test** (メモリーテスト)
2. Java Desktop System の新しいインストールを実行するには、矢印キーを使用してインストールオプションを強調表示し、Enter キーを押します。
3. Configurator は「**Software Evaluation Agreement**」ダイアログを表示します。「Accept (同意する)」をクリックして、インストールを続けます。「Accept (同意する)」をクリックしないと、インストールを続けることはできません。
4. 「**Language Selection** (言語選択)」ダイアログから言語を選択し、「Accept (了解)」をクリックします。

5. Configurator はシステムを解析します。Linux がシステムにインストールされていない場合、Configurator はハードウェアのインストール設定を表示します (手順 8 の例を参照)。

一方、Linux がシステムにインストールされている場合、Configurator は次のオプションを表示します。

 - 「新規にインストールする」

このオプションは、Linux がシステムにインストールされていない場合、あるいは、現在インストールされているものとは異なるバージョンの Linux をインストールする場合に選択します。
 - 「既存のシステムの更新」

このオプションは、現在インストールされているバージョンの Linux を更新する場合に選択します。このオプションは、既存のシステム構成の設定を可能な限り保持します。
 - 「インストールしたシステムの起動」

このオプションは、現在インストールされているバージョンの Linux が再起動できない場合に選択します。このオプションを使用して、手作業で再起動の問題を解決することができます。
 - 「インストールを中止する」

インストールを中止するには、このオプションを選択します。
6. 「新規にインストールする」を選択し、「了解」をクリックします。
7. Configurator は、次のソフトウェアオプションを表示します。

「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」
「デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用」

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。
8. 次に、システムのインストール設定が表示されます。

以下に例を示します。

 - モード — 新しくインストールする
 - キーボードレイアウト — 日本語
 - マウス — PS/2 マウス (Aux-port)
 - パーティション — パーティションをフォーマットする : /dev/hda6 9.3 GB、(/, reiser) および パーティションをフォーマットする : /dev/hda5 196 MB、(swap)

デフォルト設定を変更するために「パーティション」をクリックすると、Configurator はハードディスクを検査し、次のオプションを表示します。

 - 「提案をそのまま受け入れる」
 - 「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」
 - 「カスタムパーティション設定をする」

「提案をそのまま受け入れる」を選択し、「次へ」をクリックします。

注 - デュアルブートシステムを作成する場合、パーティションの設定は重要なインストール手順になります。詳細は、16 ページの「パーティション分割時の推奨ガイドライン」を参照してください。

- ソフトウェア
 - 「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」
 - 「GNOME 拡張機能」
 - 「**StarSuite**」
 - 「ヘルプとサポートに関するドキュメント」
 - 「グラフィカル基本システム」

「ソフトウェア」をクリックすると、Configurator は次のソフトウェアオプションを表示します。

「デフォルトシステムに **StarSuite** をインストール - 日本、中国、韓国および台湾専用」

「デフォルトシステムで **StarOffice** をインストール - その他の国用」

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。
- ブートローダー — 1. IDE 9.54 GB, dev/hda から起動する。

「ブートローダー」をクリックすると、Configurator は次の起動オプションを表示します。

 - 「GRUB を /dev/hda のマスターブートレコード (MBR) にインストール」
 - 「起動用フロッピーディスクの作成」
 - 「GRUB を使用しません (他のブートマネージャーが必要です)」
 - 「GRUB を他のパーティションにインストールする : /dev/hda」

適切なオプションを選択して、「了解」をクリックします。

あるいは、構成プログラムが示す起動オプションをそのまま使用します。
- タイムゾーン — アジア / 東京
- 言語 — 日本語

注 - インストール作業中に次のアクションをとることができます。

- インストールを続行するには、「了解」をクリックします。
 - インストールを続行する前にインストール設定を変更するには、「変更」をクリックします。
 - インストールを中止するには、「インストールを中止する」をクリックします。
-

9. 「了解」をクリックして、インストールを続けます。
10. インストールと今までの選択すべてを実行するには、「はい、インストールします」をクリックします。

Configurator がハードディスクの準備をしていることを示すメッセージが表示されます。インストールが始まると、次のような区画を持つ画面が表示されます。

- 現在のパッケージ
インストールパッケージの名前、説明、サイズと共に、インストール済み部分のパーセントを示すステータスバーを表示します。
- インストール
CDからのダウンロードが終了した割合 (%) とダウンロード完了までの予想時間を表示します。
- インストールログ (抜粋)
現在システムにインストール中のパッケージすべてに関する実行状況を表示します。CD 1 からパッケージがダウンロードされた後、Configurator は、基本インストールが終了し、システムが再起動することを示すメッセージを表示します。
システムが再起動した後、CD 2 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。

11. CD 2 を挿入し、「了解」をクリックします。
CD 2 のパッケージをインストールするとき、CD 3 を挿入するよう求めるダイアログが表示されます。
12. CD 3 を挿入し、「了解」をクリックします。
CD 3 からすべてのパッケージが正常にインストールされると、Configurator は、システム管理者 root 用のパスワードの入力を求めるプロンプトを表示します。

注 - 必要なときに参照できるよう、パスワードを控えてください。root としてログインする必要があるのは、システム管理を行うときだけです。

13. root のパスワードを入力します。
14. 確認のためパスワードを再度入力して、「次へ」をクリックします。

次に、新規ユーザーの追加を求めるプロンプトが表示されます。このオプションはネットワーク環境では任意入力です。

15. 追加するユーザーの名前、名字、ログイン名、およびパスワードを入力して、「次へ」をクリックします。入力した内容で、ユーザーアカウントが新たに作成されます。

Configurator は次のようにデスクトップ設定の初期化を開始します。

- 「テキストモードのみ」 - グラフィックなしのデスクトップ
- 「グラフィカルデスクトップ環境」

16. 「グラフィカルデスクトップ環境」を選択して、「了解」をクリックします。

ネットワークに接続されていないスタンドアロンインストールの場合、Configurator はローカルのプリンタを検出しようとしています。

17. ローカルプリンタがシステムに接続されている場合、「はい」をクリックします。接続されていない場合は、「検出をスキップする」をクリックします。

Configurator はシステム構成を書き込み、次のハードウェアデバイスのインストール設定を表示します。

- 「ネットワークインタフェース」
- 「プリンター」
- 「モデム」
- 「ISDN アダプタ」
- 「サウンド」

18. インストール設定を変更するには、「変更」をクリックします。設定をそのまま使用する場合は、「次へ」をクリックします。

設定が正常に保存されたというメッセージが表示され、システムが自動的に再起動されます。

19. CD 3 を取り出します。

20. ログイン画面で、新規ユーザーに設定したユーザー名とパスワードでログインを行います。

これで、Java Desktop System を使用できます。

次のデスクトップオブジェクトが表示されます。

- このコンピュータ
- ドキュメント
- ネットワークプレイス
- ごみ箱
- Java™ Desktop System について学ぶ
- StarSuite 7
- ボトムパネル

Java Desktop System の使用を始めるにあたって参考情報が必要な場合は、『Java Desktop System Release 2 クイックスタート・ユーザーズガイド』を参照してください。

CD から既存のシステムをアップデートする

Linux がシステムにインストールされていることを検出した場合、Configurator は次のオプションを表示します。

- 「新規にインストールする」
- 「既存のシステムの更新」
- 「インストールしたシステムの起動」
- 「インストールを中止する」

インストールされている Linux のバージョンを更新する場合、次の手順を実行します。

1. 「既存のシステムを更新」を選択します。
このオプションは、既存のシステム構成の設定を可能な限り保持します。
2. 既存のシステムのバックアップを作成する場合、「バックアップを作成します」を選択します。
3. 「次へ」をクリックします。
4. 必要な更新の種類を選択するように求めるプロンプトが表示されます。
5. 既存のシステムを更新する手順については、11 ページの「CD からの Java Desktop System のインストール」のオンライン指示を参照してください。

パーティション分割時の推奨ガイドライン

ディスクのパーティション分割に関する推奨ガイドラインについては、次の表を参照してください。

表 2-1 パーティション分割のガイドライン

マウントポイント	サイズ	種類	注
/	5G バイト。最小 3G バイト	基本パーティション (primary)	Java Desktop System オペレーティングシステム全体が、1つのパーティションにインストールされます。この方法では、ディスクをパーティションで再分割しなくても、Java Desktop System の更新リリースをインストールできる十分なスペースが確保されます。
swap	RAM のサイズの倍。最小 128M バイト	スワップ	必要に応じて、スワップパーティションのサイズを増減できます。

パーティションのサイズ変更

パーティションのサイズを変更するとき、Configurator は次のオプションを表示します。

- 「提案をそのまま受け入れる」
- 「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」
- 「カスタム・パーティション設定をする」

パーティションのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. 「インストールの設定」ダイアログから、「パーティション」を選択し、「提案を変更して基本的なパーティションの設定をする」オプションを選択し、それから「次へ」をクリックします。
2. サイズを変更したいパーティションを強調表示して、「サイズを変更する」をクリックします。
3. スライダを使って、Windows パーティションと Linux パーティションに割り当てる容量を設定し、「了解」をクリックします。

注 - Linux 用の最小の容量は 3024M バイトです。

4. 「次へ」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「インストールの設定」画面に戻ります。

カスタムパーティションテーブルの作成

Configurator が推奨したパーティションが Java Desktop System インストールに合わない場合、カスタムパーティションテーブルを作成する必要があります。

カスタムパーティションテーブルを作成するには、次の手順を実行します。

1. 保存する必要があるファイルは、すべてバックアップしてください。この手順を実行すると、既存の Windows パーティションが上書きされます。
2. 「インストールの設定」ダイアログから「パーティション」を選択し、「カスタムパーティション設定をする」オプションを選択し、「次へ」をクリックします。
3. 「カスタムパーティション - 上級者用」オプションを選択し、次に「次へ」をクリックして「上級者用パーティション設定」ダイアログを表示します。
4. アプリケーションをインストールするディスクを指すデバイス、たとえば `/dev/hda` を選択し、「削除」をクリックしてそのディスク上のすべてのパーティションを削除します。
5. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「基本パーティション (primary)」オプションを選択します。
6. ポップアップウィンドウで、「最初のシリンダ」を 0 に、「最後のシリンダ」を + 5GB に、「マウントポイント」を / に設定します。
7. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成し、「拡張パーティション (extended)」オプションを選択します。

ポップアップウィンドウ内の値は、すべて正しい設定でなければなりません。たとえば、「最初のシリンダ」の値は「hda1」の「最後のシリンダ」の値より 1 多くなければなりません。「最後のシリンダ」は `/dev/hda` の「最後のシリンダ」と同じ値にすることができます。

ディスクの残った部分を含むように拡張パーティションを作成すると、他のすべてのパーティションは、その拡張パーティションの中に作成されます。

8. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成します。
9. 「フォーマットする」オプションの下のメニューから「Swap」を選択します。
10. 「最後のシリンダ」フィールドで + 構文を使用して、スワップパーティションのサイズを指定します。たとえば、RAM システムが 256M バイトで、スワップを 512M バイトに設定する場合、「+ 512MB」のように指定します。
11. 「作成」をクリックして、新しいパーティションを作成します。ディスクの残り部分を含む新しいパーティションが構成されます。「マウントポイント」を `/usr` に設定します。
12. 「次へ」をクリックして、パーティションテーブルを保存し、「インストールの設定」画面に戻ります。

第 3 章

Java Desktop System をインストールした後

この章では、Java Desktop System Release 2 をインストールした後に実行する作業について説明します。

システム更新の確認とインストール

Java System Update Service (Java SUS) により次の操作を実行できます。

- 使用中の Java Desktop System に必要なソフトウェア更新をインストールする
- 使用できる更新のリストからインストールする更新を選択する
- 利用できる更新を確認するサーバーを指定する

Java SUS アプリケーションを起動するには、「起動」→「アプリケーション」→「システムツール」→「オンライン更新」の順に選択します。

詳細については、『*Java System Update Service ユーザーズガイド*』を参照してください。これらのマニュアルを使用するには、付属の *Sun Java Desktop System Release 2 Documentation CD* を使用するか、<http://docs.sun.com> にアクセスします。

ハードウェアアクロックを変更する

ハードウェアアクロックの時刻を変更するには、次のようにします。

- BIOS 設定画面に入って、時刻を直接変更します。
- `/sbin/hwclock` ユーティリティを使用して、時刻を変更します。ただし、このユーティリティはサポート対象外です。

カスタマーサポート

Sun Microsystems が提供するカスタマーサポートサービスは次のとおりです。

参照先	説明
http://www.sun.com/service/contacting/solution.html	技術サポートセンター
http://www.sun.com/service/support/warranty/	グローバル保証サポート
http://www.sun.com/service/support/software/desktop/index.html	ソフトウェアサポートサービス